

その異常な青緑紋の大きさは、長さ7ミリのものが♂♀各1頭と、3ミリの♀が1頭、異常紋と容認出来るものの♂が1頭と計4頭に異常が見られる。

強引ではあるが異常型出現の確率にすれば6%~12%であるとも言えるかも知れない。

ちなみに前翅外縁の白紋について観測すると、前翅裏面の外縁全長に亘って白紋があるものが33頭中4頭あり、裏面外縁全長ではないが表翅にまで浸透しているものが6頭あった。

他に前翅後縁の幅と、青緑紋の幅とを16室で長さの割合を比較対象してみたところ、面白いデータが得られているが、夏型と同数対象させてみた方がより面白いと思う。

来夏は再び友君の地をたづねて、この問題を押し進めて行きたい。

キチョウの雌雄型

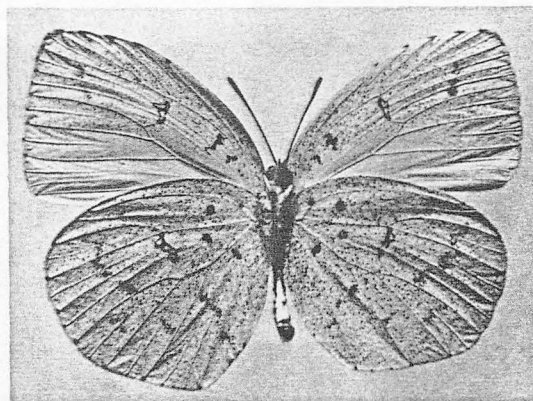
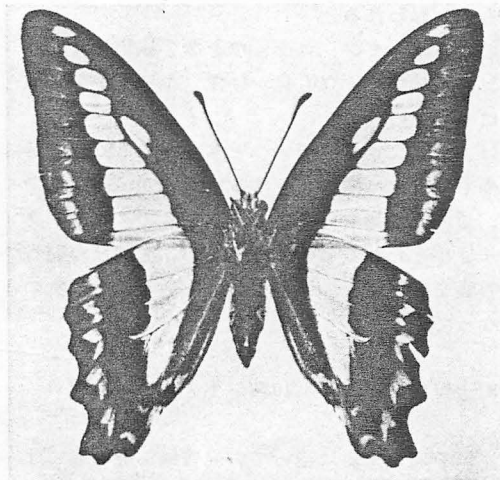
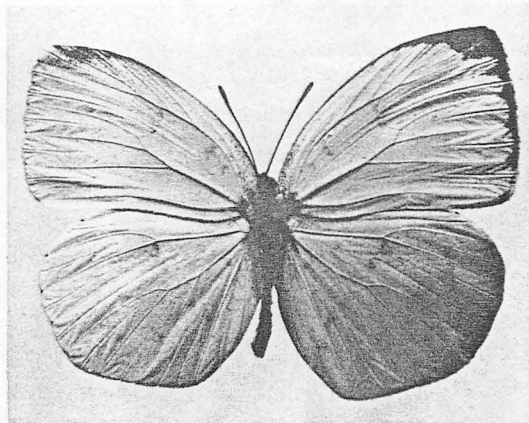
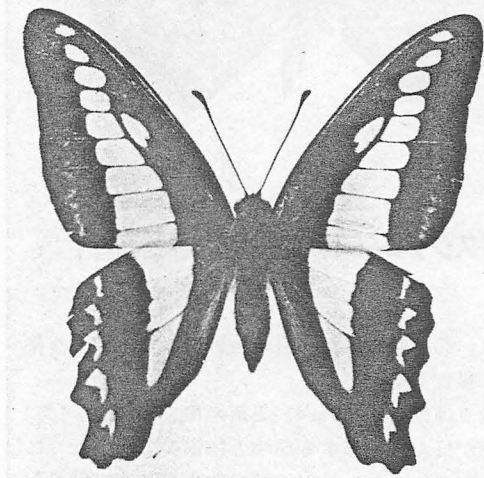
入江 照夫

1977年9月15日相生市矢野町小河で採集したキチョウを整理していると非常に多くの変化が見られる。

時期的に夏から秋への移行時であるせいもあるが採集されたキチョウも夏型、秋型、夏秋中間型ありで一日で採集される蝶で個体変異のこれほど多様な蝶は他に類をみないのではないか。

その中の一頭に雌雄型の異常型があった。秋型であるが右翅が♂で、左翅が♀である。

写真では判別しにくいと思い異常の度合を記す。両翅共♂♀特有の特徴を完全に備えており、♂特有の前翅裏面中室下方の翅脈両側にある性紋と外縁の黒帯、翅地色の黄色の濃淡などが完全に左右の翅で雌雄に分かれている。採集時の状況、幼虫の採集等から、この個体の食草はカワラケツメイと考えられる。



(TERUO IRIE) 〒678 相生市